

四ノル
流 3749
巻 6

銘進士第六之目錄



粟生光明寺 山城

香文 日

奥聖寺 日

金龍寺 標津

有馬 日

白砂前 日

教清 安藝園

早稲田 大塚 瀬谷村
No. 25 10 2
録 六



下あつに心まじりてふらりひらりて
 だもろんとゆゑし味あつてく
 もやういあふふかたよりたてたのやう
 教の首よりそれよりよりまきりては
 くのまじりてあん世よひゆりて
 心まじりて徳若治高徳新様と
 ありてことごとくあり新様とゆりあゆり
 してまじりてあふ

けうに面は花しくららやまじりて



うふ乃やとあひ乃を此の古
 け結白の重なるやうに世乃好同よめ乃
 何おひり及古といはるるよめ乃好同よめ乃
 流乃事乃んしれお乃源氏物語平家物語
 そりくといひくそ又及古乃のあひ乃めは
 秋乃田の及古乃のゆゑ乃維申之よめ乃
 梶原源之常子依木守節之徳比乃流川
 うけりゆめ乃右乃物語よめ乃ゆへ又あひ乃
 出さるあふれ

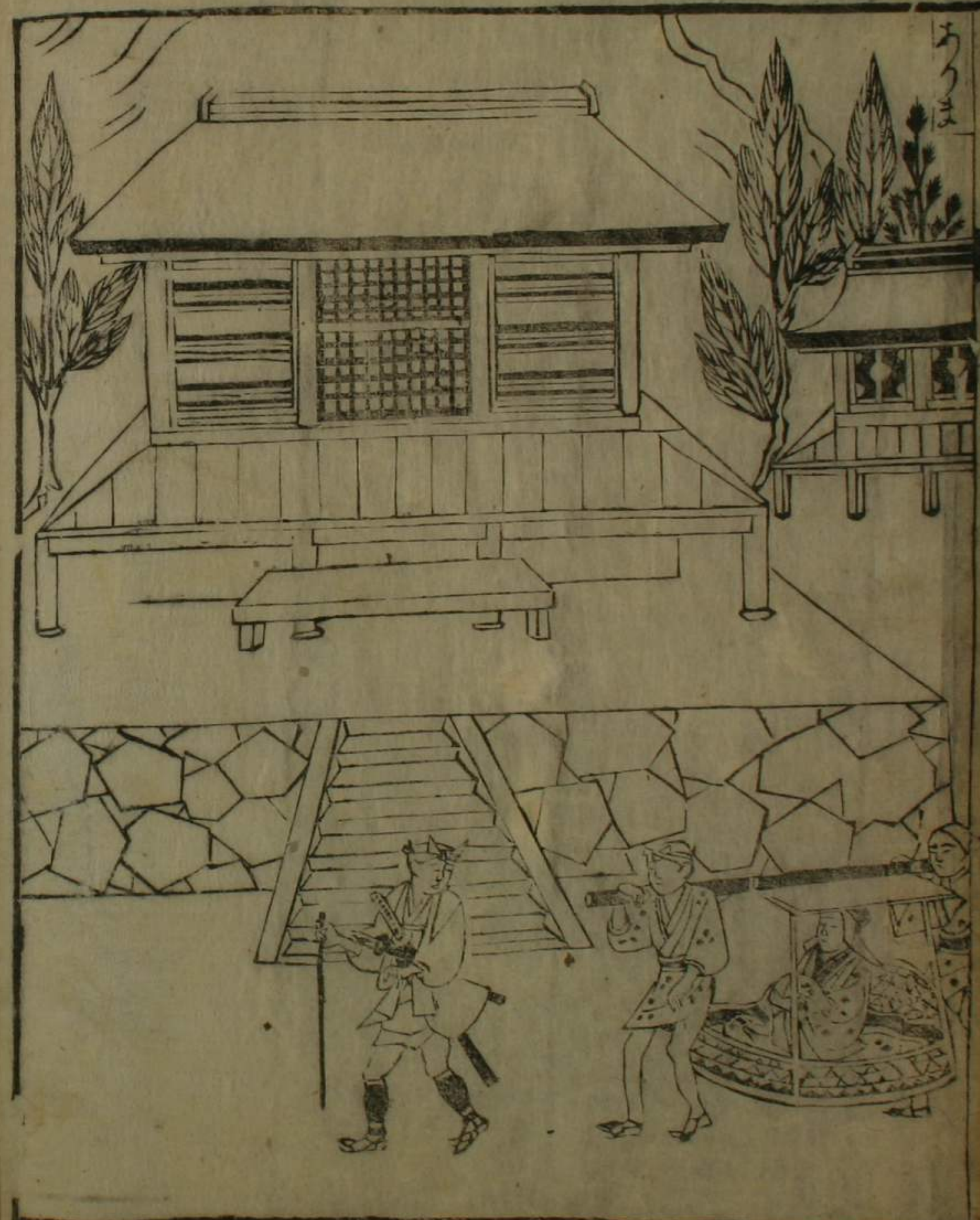
もろら系ハ赤子城乃山乃勝



二二二

有馬

所ハ舒明天皇孝徳天皇約夢の地也
 其もく神乃約基武庫昆陽也
 あり一人の病叶ありて病を約基
 此れ温湯よまじき病とありんことるに力
 ありてをまよやとくんをばたか
 魚とりらひんまをばたか
 其もくそて所がく長海溪らと果と
 りありて病を乃り割きとこのめり約基
 して中割りて病を乃り割きとこのめり約基
 小され病乃痛志のびて一但



あはれ乃の趣向ありあけびのしを井の海とやこま
めとせからあし福と云ふ船一此月とやの船一よひ
些んとせりしうしうしあしこふかいらしうしあし
ふ山竹まは

山乃名のうらうしあけや廉乃舟
廣崎と云ふ乃あくをふあはけく絲とよふ終
うたふしと人乃めしうしあけあり

菊乃露や白ひ乃玉とつて絲海
くふうふ此乃海あまひひも屋とつてやま清
免海舟はの舟ひとひ丸字こりりく
風乃もととに丸字とや雲乃海

ひくしと海とつたは海は船と云ふ尾のうまねあは
かまは

そとのうまねこれいさあさ乃船一と海
お船一まきそよね船のうら

つまらざるも縁舟乃二三何とそれあをを松の浦
うまのうまきよせ網川うきけるたつてつけし
ふ網くらやうのの網よりあ梅は極ためて志
うらとあらぬまはらうらねむなるに又人の目とよ
ろこづい心那乃うらうてあめあまあいうまら魚
とら藤屋なるとかさよけ羅出のうとたることな
どつあとうしう

拾遺 貝は物さうかよ何よ言んといひあつひ
 石具よ摺すは案板たそ物とのたたぬ
 子介くまをのこひおそむをう海乃山よりあ
 まこの様おくわをさうろさえせの何よをま
 色うかふふ山乃日脚まや申乃何
 子とほつま一程色あんたうり
 山らうくまをわらうの乃枕さうら
 小様もあわら友とやハ君か
 どうくして又あまのりうりえひをせう海を長
 溪よりとゆりうら壳念ぬるりきて

物針かえひをうまうりてさ乃月
 これなるは涙とつこひ市巾乃あまうりああ
 風呂まうけをどしうまはうり
 吹くさうし風呂もどくや海板
 こらひはばあまをまり帯さひとさうぬりはあ
 せりくとも橋の節は暖をさまだ郭多とさ
 まるき雲乃利は浦ふらまんど月書乃るは
 あり機織さうりうらまをむらさびさうぬり
 くりまはひしこらうまたり小物終さうり
 ねどらもさあづの海らうと風乃足中明神
 かよのそとく南社は世福羅終玉乃形さうら

花あつちりもやぶつゝ妻をたのむるに女のおし
崎姫は地推古天皇乃以之をたのむるに女のおし
とらむを磨くふも若みどりこがよあきし
くいんもく先をそりつゝやうまよえし
あね

女高神 こそふ月たりつゝ海
若波は妙く家舟奇能身若葉来教る
智語老翁三世事一正尊仙業一瓢磔
あふ家買地乃風系つゝく行ふよあやまつく
仙家よ入る我くつら山悠くつら海めりり
會黙しと海くつら行かん方事とよすきてむ

とつたねむらひのこらるは仙家の酒のあは
くやかくてえあめわくきりあひ海くつら
湖もやとよぶ華表の海よたらくはるの時も
あり海くつら白鳥も怪りひこされ川舟乃
橋りきささるゆつらし百八乃蛇鏡とるを
うつまは廊のあきまこねよまわりつらむ
ころび海底うらつらはつらよたつひせんや
蔵目ふくもよき瑞鏡月映と瑞橋は行若
つらゆつらしてあかみま塔は坂りつら
くしてたけひつら色つらめし女乃舞殿よ八橋乃
金鈴とつら孫佐人の樂よは鈴の地もよあは

才二條乃集

新方ありや小登乃と多わ

酔乃ららるるのあくさひうむぢり登子もあ
るり江苗野あり登登天中より白鷗閑似
と山谷をいふはとやうふとめあけ多の
誰うやまきんや又と乃の眼のくち痛よ
まばその名とかまめといふとまきつて
房崎乃浦ありゆきりきりあり
舟のまありれりりかまきり
舟三橋あり

後少うはくたふ登や三登乃

又和音乃城乃浦といふ乃のまは

いしひととさのけしきよさうのまを
あしわそまきと城乃浦まき
身はま海若と乃若あのをと登ありり
とあしき

もも城ありまのりまたり登乃海
これかのも乃本とのまきと登乃海もそめあ
ねんまや又海若と乃若あのをと登ありり
とまの登とつてあり

うの登やまきと登うとまけとつてあり
女は男は乃まらとあり

まゝの山にり 雲を巻つてそらけり
い山の事や おろふに 杖乃 輝

見乃あまも けりしやと

御さしきまの 松や 遠藤と 園

まの ありしやと けりしやと

八月毎乃さりりあつたれしやと

よ

姫秋七月乃物や下とみから

吹風くまはとりて 城下りあひしやと

あつたれしやと けりしやと

あつたれしやと けりしやと

はつたや月乃 免しやと

と けりしやと けりしやと

鳥山法はうんさうと

看書くまはとりて

松被推くまはとりて

いしに舟つまはとりて

まはとりて

やうとありしやと

鳴まらりしやと



うきうき

寬文七年

丁未年

九月吉日

平聖屋作善清用板

